

夫婦の絆で掴んだ 国際写真サロン最高賞



△「第84回国際写真サロン」での
受賞作品「スマホに興味」



1 左から、江川清さん、江川多嘉さん

えがわ たか
江川 多嘉さん

プロフィール

朝日新聞社、全日本写真連盟が主催し、海外、国内から計7,629点の応募があった今年の「第84回国際写真サロン」で、最高賞の審査委員特別賞を受賞。

朝日新聞社、全日本写真連盟が主催し、国内外から計7,629点の応募があった「第84回国際写真サロン」。

市内在住の江川多嘉さんが撮影した作品「スマホに興味」が、海外、国内から各3点のみが選出される、最高賞の審査委員特別賞を受賞しました。

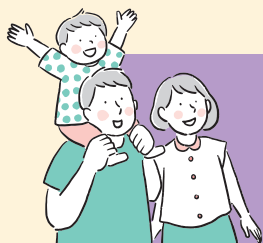
作品の受賞の連絡を昨年12月に受けた多嘉さんは、その際の気持ちを「普段から夫と一緒にさまざまなコンテンツに応募してきたが、今までで一番規模の大きなコンテストでの受賞で、とても驚いた」と話します。

多嘉さんは、二人の息子の子育てが落ち着いた31年前に、20代の頃から写真が趣味だった夫の清さんの勧めで、清さんが持っていたカメラのうち1台を譲り受け、写真を撮り始めました。多い時には、月に10日は夫婦で一緒に写真を撮りに行っていました。現在は多嘉さんの持病の影響で、以前ほどの外出は難しくなりましたが、いいます。写真にのめり込んだきっかけについて「コンテストに応募してみたところ、すぐに入選したことが嬉しく、どんどん写真の魅力に取りつかれていった。一

番の魅力は、写真一枚の中にも、被写体となる人や物の紡いできた歴史や物語が写り込むこと」だと語る多嘉さん。

今回受賞した作品は、ススキなどの草を束ねて家畜の餌などに利用する「茅ボッチ」を撮影しに、江川さん夫婦と友人の3人で日光に行った際、途中の道で偶然二宮金次郎像を見かけたことがきっかけで撮影したといっています。作品に写っている友人の持つスマートフォンを、二宮金次郎が覗き込んでいるようなユーモラスな構図については「いろいろな角度から撮影していて、帰ってから改めてデータを確認したところ、偶然このような構図になっていてとても面白いと思った。この写真が撮れたのは、いくつもの偶然が重なった結果。夫の運転する車の中では、いつも景色を見ながら構図を考え、頭の中のシャッターを切るようにしているの、それが実った」と笑います。

二人三脚で長年写真を撮り続けてきた江川さんご夫婦。これから、二人で切磋琢磨しつつ、お互いを支え合いながら、まだ見ぬ新しい出会いや風景を求め、世界を写し撮る旅を続けます。



みんなの広場



まちの魅力がいっぱい！

＼宇都宮市公式LINE／
ライトライン
広報 **うつのみや** × 「教えてミヤリー」 × 開業1周年記念

「市民フォト」特別企画

＼詳しくはこちら／

ID 1036256



ライトライン開業1周年を記念して、市民フォトコーナーでコラボ企画を実施しています。9月号では、8月15日までにご応募いただいた写真の中から、抽選で選ばれた15枚をご紹介します。掲載された人には、後日、ライトライン開業1周年記念グッズを送付します。

問 広報広聴課 ☎ (632) 2028



夢はライトラインの運転手
はるな



アイラブ！きいろいでんしゃ！
ゆいくん



またじいじと乗ろうね！
いく



念願のライトライン
かちよー



my tota！便利だよ
みほこ



ぼくとライトライン
よっさん



Night lightline
Pさま



みどりに伸びるライトライン
匿名



私の夏とー！
summer snow



tota！
しんじ



青空とライトライン
まーちゃん



出発
ひさ



稲穂が実るころは一歳の誕生日
木村裕幸



未来都市
とっつあん坊や



夕涼み
よしかわ ひろやす

10月号掲載
締め切りは
9月12日
ご応募お待ちしております

素敵な写真のご応募
ありがとうございました！

